



Dome

Artist's Attempts
around the Monument

ドーム：
そのモニュメントをめぐる
アーティストの試み



《nijuman no borei (20万の亡霊)》2007

nijuman no borei
(200000 phantoms)

ジャン＝ガブリエル・ペリオ

Jean-Gabriel Périot
1974-

1915年にオープンした広島県物産陳列館は、当時まだ珍しかったドームをいただく煉瓦づくりの西洋建築であり、そこでは特産品の陳列や美術品の展示などが行われていた。その後原子爆弾を受け廃墟となったことで、この建物はいつしか「原爆ドーム」と呼ばれるようになった。

この作品には、1914年から、2006年までに原爆ドームを撮影した約1000枚の写真がコラージュされている。アーカイブを編集した映像作品を制作、発表しているペリオは、フランスから足繁く広島を訪れ、絵葉書やスナップ写真まで膨大な写真資料を集めた。これらの写真資料は、コマ撮りのアニメーションのように重ね合わされ、静かな音楽と詩的なモノログと共に一続きの映像として紡ぎ出されている。

写真は、その風景に関わる人々の記憶でもある。この作品では、多くの写真が重なり動きだすことで、それぞれの写真の中に分断されていた記憶がひとつの集積となる。本作では、原爆で失われた人々だけでなく、それ以前、それ以後に生きてきた名もなき多くの人々の記憶が、「原爆ドーム」と呼ばれるこの建物を軸にゆるやかに繋ぎ合わせられ、私たちにこれらの「生」を強く印象づけるのである。(小橋)

フランス生まれ。フランス、トゥール在住。1999年パリ、パンテオン＝アサス大学メディア・スタディーズ卒業。現在ビデオ、劇場向けのショート・フィルムを中心に制作。2006年「タンペレ・ショート・フィルム・フェスティバル」(フィンランド)にてグランプリを受賞するなど、各国の映画祭で高く評価されている。《nijuman no borei》は、2007年第11回文化庁メディア芸術祭アート部門大賞を受賞し、2008年「第11回文化庁メディア芸術祭」展(国立新美術館)に出品。